

● はしがき ●

本書は、すでに好評を頂いている『実は知らない 英文法の真相75』、『実は知らない 英文誤読の真相88』(プレイス刊)に続く「真相シリーズ」第三弾(真相その3)です。前作では「誤読」をテーマに、「固定観念や丸暗記では読めない88(+1)のポイント」を比較的短い文章を題材に解説しましたが、今回は「正読」(英文を正しく読む)と題し、英文リーディングの本質と方法論について、題材を東京大学の入試問題の英文にしぼってお届けすることになりました。

東大の英文を選んだことには理由があります

- ① まず、東大の問題は、一般に思われているのとは異なり、一部の人しか知らないようなマニアックな単語や文法知識を問う問題は一切出題されないこと。
- ② それでいて簡単かという点、中途半端な理解・知識では通用しない(間違えてしまう)、いわば英語のエッセンスが心底身につけているかどうかを試す良問であること。

東大入試の英文・設問は、「東大受験生だけが受験のために触れるのでは、もったいなさすぎる、良質のものばかり」なのです。

本書では、近年のものだけではなく、かなり以前のものにまでわたり、東大がこれまで出題してきた良質の英文を教材として、英文の仕組みと構造、特に論理展開の仕組みに焦点をあてます。この狙いは、そこそこ英語に自信のある学生・社会人諸氏がつい陥りがちな読み方——基本をおろそかにしてしまうことによる、いわば、「力任せ」「文脈」「前後関係」といった、いかにももってもらしいが、しかし結局は、「なんとなく」いい加減に読んだり解いたりするだけの状態——では、通用しないことをまず認識していただくことで、英文を正しく読むための、まさに真相に迫ろうというものです。

正しく読めれば、正しく解くことも、できます

本書は、「東大入試の“受験対策本”」ではありません。つまり、「こうすれば、読まなくても(!)答えが出る!」といったような話には一切触れることはありません。ただし、本書に収録された東大入試の英文と真剣に向かい合い、東大の出題してきた設問と格闘することで、結果的に(東大を受験する、しないに関わらず)、東大の入試問題を自信を持って読み、また設問にも確実な根拠をもって答えを出すことができるようになるでしょう。

また、逆にいえば、東大以外の他の難関大学(京大、一橋、早大、慶大など)を目指す受験生の方々にも絶大な効果をもたらすことができるはずですが、なぜなら、東大英語の文章・設問には、すべての大学で問われる英語の読み方・解き方のエッセンスが凝縮されているからです。

最後になりましたが、日本の英語教育に携わる者として、長年にわたり、これだけの選りすぐりの英文を選定され、良質の設問を作成される東大の先生方の尽力に心より敬服します。

2010年12月

佐藤ヒロシ